

# こどもまんなかでつなく 学校と放課後

いま地域と自治体が  
できること

オンライン  
開催

2023年11月14日火 13:30~15:10 | 第1部 13:30~14:15  
第2部 14:20~15:10

1. サマリ
2. 企画概要
3. オンラインフォーラム申込状況
4. PR施策・広告効果
5. 当日の参加状況・アンケート結果

## 企画概要

1. オンラインフォーラム：自治体を中心に地域で子どもの居場所づくりや教育に関わる方々を対象に、「こどもまんなかの放課後」実現に向けた意識変容、行動変容のきっかけをつくる。
2. 上記を通じて、国および地方自治体に向けた政策提言を行う。

## 実績・課題

1. 申込537組、当日参加約220組、アンケート回答124名  
◎ **総参加人数が目標の200%達成、関心の高い多様なステークホルダー**を集められた。  
△ **自治体職員**申込76件、アンケート回答20名。  
○参加者満足度は肯定回答が99.2%（とても+まあ）
2. 国および地方自治体に向けた**政策提言書ver.1が完成し、こども家庭庁・文科省との意見交換も実現した。**

## 成果（アウトカム）

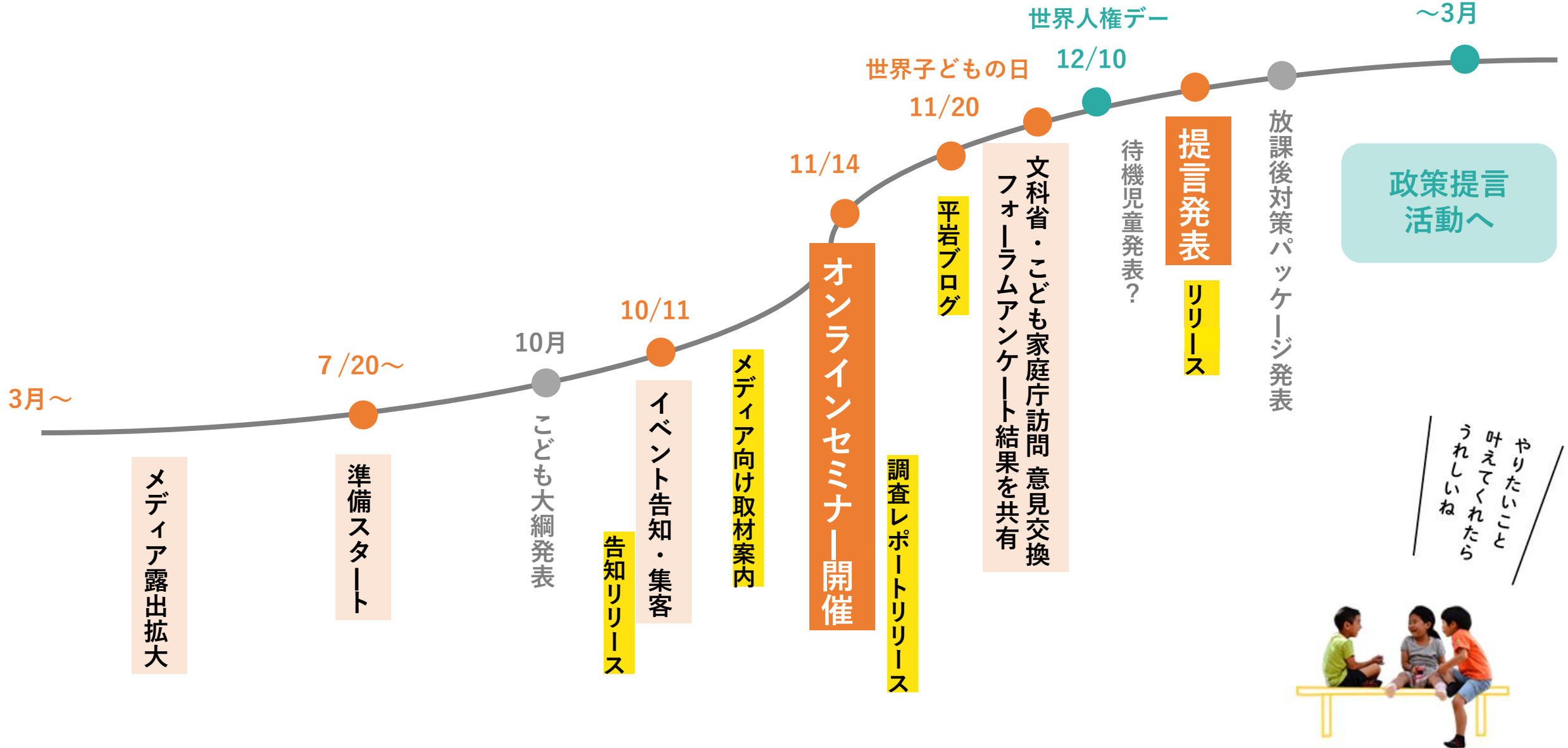
- **参加者の意識変容**を表すコメント多数
  - ・子どもの声を聴く重要性
  - ・学校が活用できること
  - ・学校と放課後の連携の重要性
  - ・子どもにとって遊びの重要性
  - ・放課後の居場所の「質」の重要性、子どもにとっていたい場か
  - ・地方でもできることがある
- **参加者の行動変容のきっかけ**になったコメントも多数
  - ・子どもの声を聴く、リクエストボックスや話し合いの場を設定するなど
  - ・行政担当者へ連携を働きかけたい。「アーカイブ映像を見せたい」という問い合わせも。
  - ・学校活用について学校へ連携を働きかけたい。
- **持続可能な啓発活動のモデル構築**  
体制、業務フロー(各種テンプレあり)、  
コンテンツ「国の担当者+有識者+取り組み事例（都市部と地方）」  
のパッケージとして、持続可能な啓発施策のモデルが構築できた。

## 企画概要

---

- ・ 目的
- ・ 全体像
- ・ オンラインフォーラム
- ・ 独自調査
- ・ 政策提言

# 超アフタースクール2023 | 全体像



## 超アフタースクール2023 | 目的

- 自治体を中心に地域で子どもの居場所づくりや教育に関わる方々を対象に「こどもまんなかの放課後」実現に向けた課題や好事例を発信し、放課後の質向上に向けた意識・行動変容のきっかけをつくる
- 上記を通じて、国・地方自治体への政策提言につなげる。
- 広く社会に放課後の価値を発信し、関心を高める。

# 超アフタースクール2023 | オンラインフォーラム概要

- 日時：11月14日（火）      【第一部】 13:30-14:15      【第二部】 14:20-15:10
- 目的：小学生の放課後に関わる課題提起や「こどもまんなかの放課後」実現に向けた取り組み事例を発信する
- テーマ：「こどもまんなかでつなぐ学校と放課後～いま地域と自治体ができること～」
- 対象：      （メイン） 地方自治体      （サブ） 官庁、企業、放課後事業者、メディア
- 第一部
  - ① こども家庭庁成育局成育環境課 山口正行様 ご講演
  - ② 日本総合研究所 池本美香様 ご講演
  - ③ 放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩国泰 講演
  - ④ パネルトーク（山口様、池本様、平岩）
- 第二部
  - ⑤ 三鷹市教育長 貝ノ瀬滋様 ご講演
  - ⑥ 安平町地域プロジェクトマネージャー井内聖様 ご講演
  - ⑦ パネルトーク（貝ノ瀬様、井内様、平岩）

# オンラインフォーラム | トークテーマ

## 第一部(45分)13:30~14:15

- ①こども家庭庁が目指す「こどもまんなか社会」とは？(こども家庭庁成育局成育環境課長 山口正行様) 10分
- ②国際比較を通じた日本の小学生の放課後について(日本総合研究所調査部上席主任研究員 池本美香様) 10分
- ③放課後こそ子どものWell-beingにつながる時間(放課後NPOアフタースクール代表理事 平岩国泰) 7分
- ④パネルトーク「子ども目線の放課後を実現するには～大切にしたい居場所の質とは～」(山口様、池本様、平岩)15分

## 第二部(50分)14:20~15:10

### 第2部登壇者紹介(司会) 2分

- ①三鷹市「学校3部制」構想～地域の共有地としての学校活用、地域人財とともに行う教育～(三鷹市教育長 貝ノ瀬滋様) 10分
- ② 安平町早来学園「いつの間にか出会う、つながる」学校を中心に町ぐるみでつくる子どもの居場所  
(安平町地域プロジェクトマネージャー 安平町教育委員会 子育て・教育総合専門員 井内聖様) 10分
- ③パネルトーク「三鷹市・安平町に聞く～ヒト・モノ・カネをどう確保する？～」(貝ノ瀬様、井内様、平岩) 25分  
視聴者から事前にいただいた質問への回答を交えて、様々な問いについて意見交換を行います。



# 独自調査「小学生の放課後の過ごし方」

プレスリリース：<https://npoafterschool.org/archives/news/2023/11/40549/>

調査レポート：[https://npoafterschool.org/wp-content/uploads/2023/11/231114\\_Houkago\\_Report.pdf](https://npoafterschool.org/wp-content/uploads/2023/11/231114_Houkago_Report.pdf)

## 調査結果のサマリー



### 今回の調査から見えた重要なポイント

1

76.2%の小学生が放課後に「もっと友達と遊びたい」と回答（WEB調査より）

2

放課後に友達と遊ぶのが週1回以下（週1回/ほとんどない）の小学生は70.9%となった（WEB調査より）

3

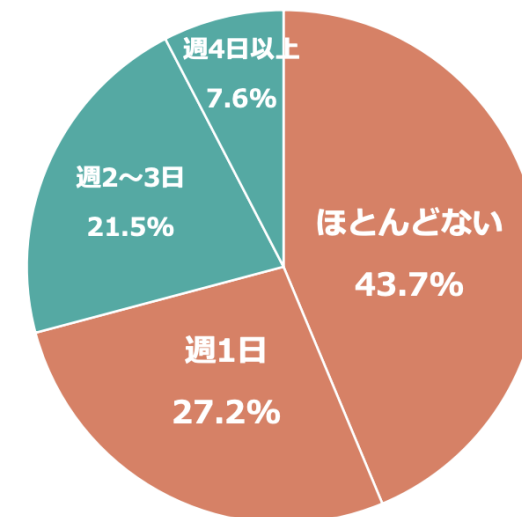
「もっと友達と遊べるようになるにはどうなるというか」という問いに対しては「友だちの遊べる日が増える（39.1%）」がトップ、次いで「遊び場が近所にできる（35.7%）」と回答（WEB調査より）

4

放課後に思うように友達と遊べない理由を聞くと、「時間がない」「仲間がない」「空間がない」という、「3つの間」に課題があることが伺えた。また、遊び場のルールや人・環境による制約のため、思うように遊べない場合があることも伺えた。（インタビュー調査より）

放課後に友達と遊ぶのは「週1回以下」と答えた割合は70.9%となった。

放課後にどれぐらい友達と遊んでいますか?(n=302)



# 政策提言概要

提言書：[https://npoafterschool.sharepoint.com/:p:/s/NPO\\_/EWb8TE0KgwZNtvhBP2ScLwIBG9tf-LpX7wALdNbtZ\\_YhzQ?e=5kiNkD](https://npoafterschool.sharepoint.com/:p:/s/NPO_/EWb8TE0KgwZNtvhBP2ScLwIBG9tf-LpX7wALdNbtZ_YhzQ?e=5kiNkD)

## 誰もが自由で豊かな放課後の時間を過ごせる社会に向けての 提言書(案)

2023年12月XX日  
特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール

### 目次

1. 概要	P.3
2. なぜ放課後が重要か	P.4
3. 現状認識	
3-1. 子どもの現状	P.5
3-2. 保護者の現状	P.8
3-3. 放課後の現状	P.10
4. 放課後の課題	P.11
5. 解決策	
5-1. 目指す姿	P.15
5-2. 解決策	
解決策1. 放課後スタッフの充実	P.16
解決策2. 学校施設の活用	P.18
5-3. 導入事例	P.21

## 12月19日(火)公開&プレスリリース(予定)

### 1. 概要

- ✓ 多くの子どもが、自由に友達と遊べない放課後の時間を過ごしている
- ✓ 待機児童や自由に遊べる空間の不足などの課題も山積
- ✓ 受け皿整備に加え、子どもにとって「居たい」「行きたい」「やってみたい」場所にするための質の向上も必要

## 誰もが自由で豊かな放課後の時間を過ごせる社会へ

### 放課後スタッフの充実

- 現役世代の職員も長期的に勤務できる**適正な処遇**
- 子どもへの向き合い、専門性やスキルの向上ができる**余裕のある職員配置基準**
- **全児童対象**の放課後事業に対する**補助制度の創設**

### 学校施設の活用

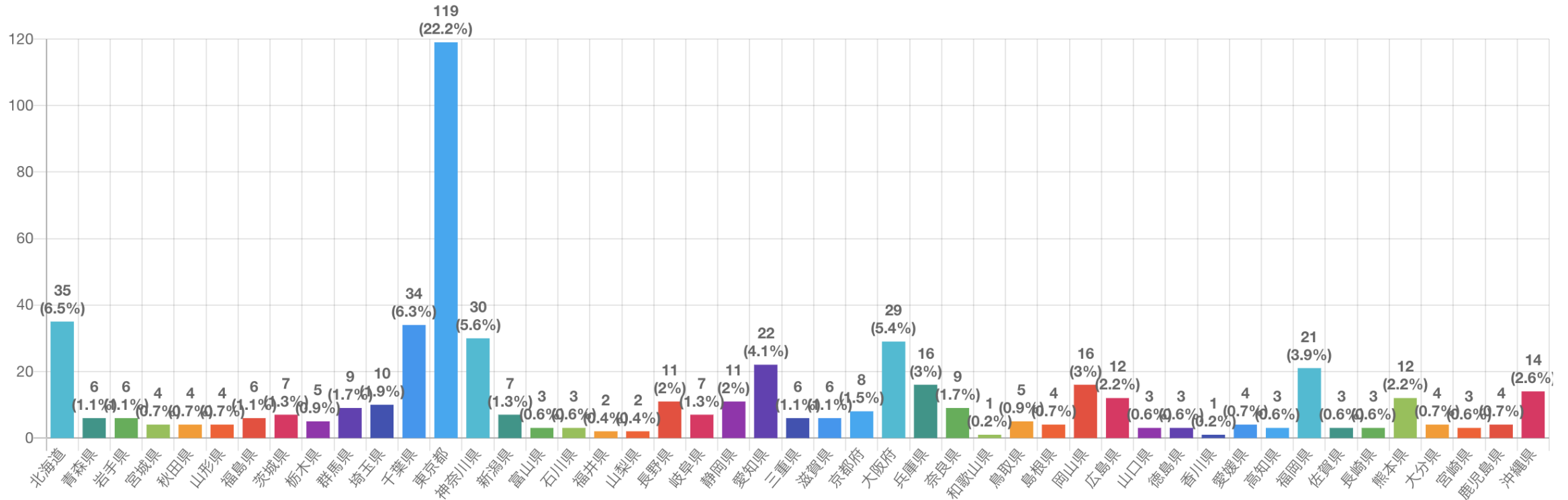
- 複数の場所を利用して活動する場合の追加的な**職員配置への補助**
- 学校の施設利用調整や管理を**教員が担う体制の見直し**（副校長支援員の業務への位置づけ等）
- **放課後に使用することを前提とした施設・動線設計**（学校の新築・改築時に放課後現場の意見を取り込む仕組み）
- 管理負担を少なくする**動線改修・鍵設置、タイムシェアのための可動式家具等への補助拡大**
- 学校施設活用の子どものメリットや好事例について、**教育委員会や学校への継続的な発信**

## オンラインフォーラム申込状況

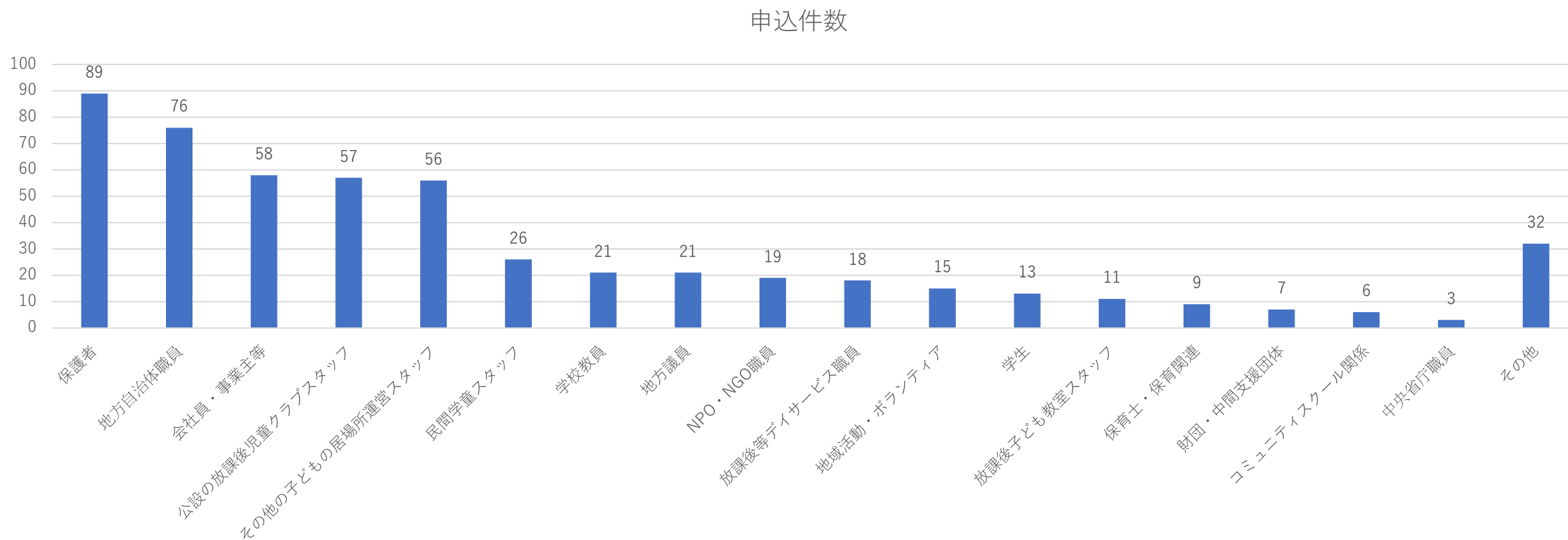
---

- ・ 申込件数
- ・ 申込者の属性

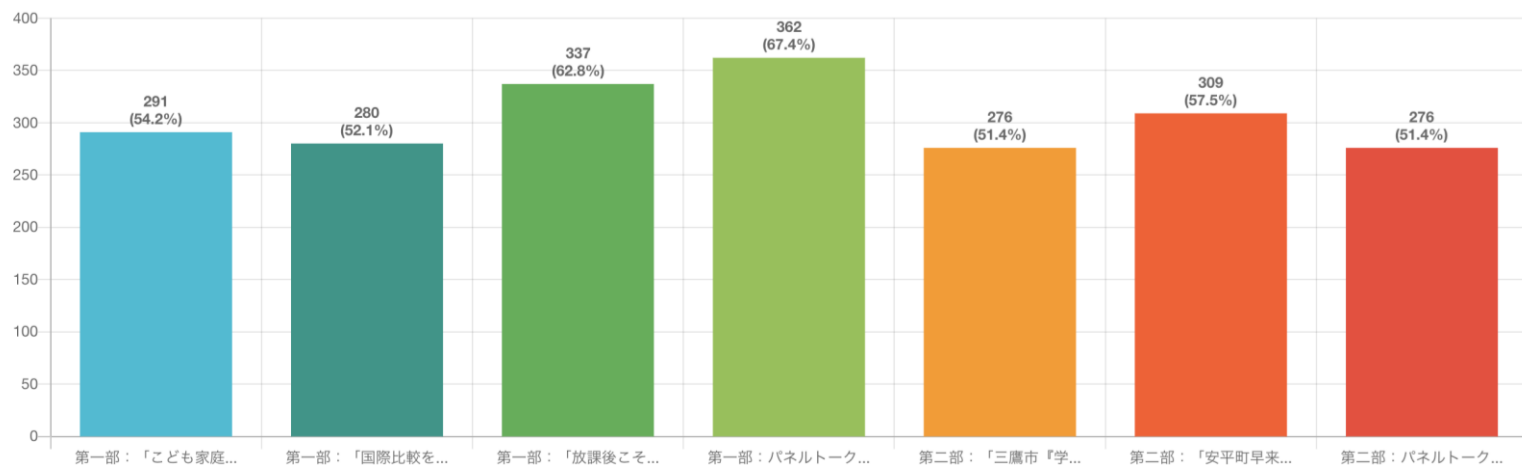
- 申込537組、657名（当日参加は220組前後）
- 47都道府県から申込があり、東京都が最多、ついで北海道、千葉県、神奈川県



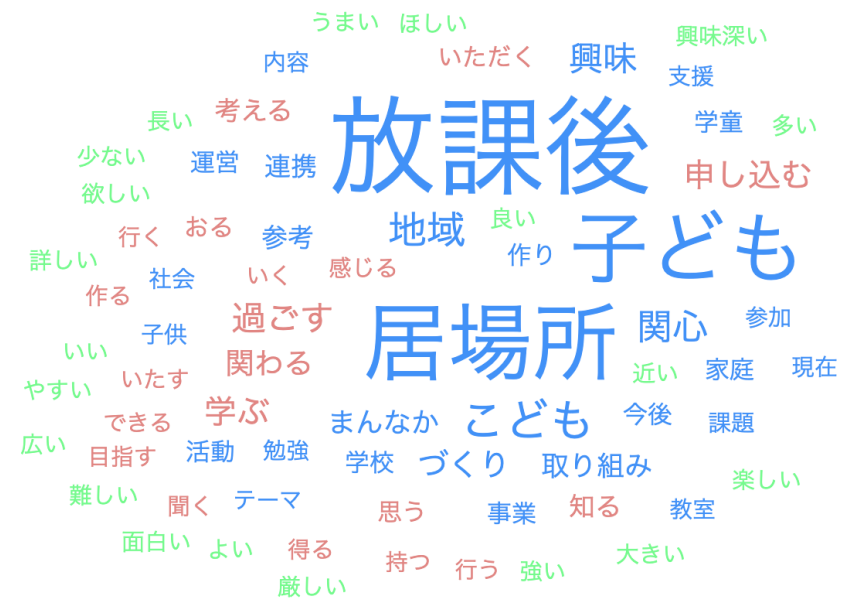
□ 申込者の属性は、保護者、地方自治体職員、居場所従事者を中心に多様



## どのセッションに興味がありますか？



## 申込理由（テキストマイニング）



# PR施策

---

- ・ 施策
- ・ 関連記事リンク集

## 公式サイトお知らせ

【11/14(火)・オンライン開催】こどもまんなかでつなぐ学校と放課後～いま地域と自治体ができること～

2023.10.11 [お知らせ](#) [イベント情報](#)

放課後 NPO オンラインフォーラム | 参加無料 **超アツク 2023**

こどもまんなかでつなぐ学校と放課後 いま地域と自治体ができること

オンライン開催 2023年11月14日(火) 13:30~15:10

第1部 13:30~14:15  
第2部 14:20~15:10

平岩 国泰 池本 美香 山口 正行 貝ノ瀬 遊兵 井内 聖兵

放課後NPOアフタースクールでは「世界こどもの日」に寄せて、11月14日(火)にオ

## イベント告知 PR

PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES プレスリ

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタ

小学生の放課後に関する独自調査も発表！オンラインフォーラム「こどもまんなかでつなぐ学校と放課後～いま地域と自治体ができること～」開催

日時：2023年11月14日(火) 【第1部】13:30-14:15 【第2部】13:20-15:10

特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール

「放課後はゴールデンタイム」をビジョンに活動する特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール(代表理事：平岩国泰、本部：東京都文京区/以下「放課後NPOアフタースクール」)は、2023年11月14日(火)、こどもまんなか社会を放課後から実現するために、小学生の教育や居場所づくりに関わる自治体担当者を主な対象としたオンラインフォーラムを開催します。当日は小学生の放課後に関する独自調査も発表。学童の待機児童や質の問題をはじめ山積する課題を背景に、国、地方自治体、有識者の方を交えて、小学生の放課後が安全で豊かなために地域や自治体ができる取り組みについて考えます。

■なぜ放課後の居場所が必要なのか

幸福度(well-being)や自己肯定感の低下、体験格差や孤独、そして自死率の問題など、日本の子どもたちを取り巻く問題は年々深刻化しています。小学校低学年では学校授業1,200時間/年に比べ、放課後の時間は1,600時間と長く(※)、この時間をどう過ごせるかが子どもの育ちにとって重要な一方で、放課後の居場所は質量共に不足。この現状は保護者の働き方まで影響を及ぼし社会問題として注目されています。放課後NPOアフタースクールは、学校施設を活用し、地域と共に豊かな放課後の居場所を全国につくことで課題解決に寄与することを目指しています。(※)週末・長期休暇も含む。

■10人に7人が「放課後に友達と遊ぶのは週1回以下」と回答(当日発表独自調査より)

## 独自調査報告

PR TIMES プレスリリース・ニュースリリース配信サービスのPR TIMES プレスリ

Top | テクノロジー | モバイル | アプリ | エンタメ | ビューティー | ファッション | ライフスタ

【小学生の放課後の過ごし方に関する独自調査結果発表】

「放課後にもっと友達と遊びたい」小学生76.2% 友達と遊ぶ頻度「週1回以下」70.9%

特定非営利活動法人放課後NPOアフタースクール

「放課後はゴールデンタイム」をビジョンに活動する特定非営利活動法人 放課後NPOアフタースクール(代表理事：平岩国泰、本部：東京都文京区/以下「放課後NPOアフタースクール」)は、小学生の放課後の過ごし方に関する独自調査を実施しました。その結果、76.2%の小学生が「放課後にもっと友達と遊びたい」と回答したのに対して、友達と遊ぶのは「週1回以下」が70.9%となりました。調査により見えてきた小学生の放課後の実態についてご報告いたします。

2023年小学生の遊びに関するWEBアンケート調査

「放課後にもっと友達と遊びたい」10人に7人以上！！

放課後に友達と遊ぶのは「週1回以下」が70.9%

もっと遊びたい 76.2%

「仲間がない」「空間がない」が課題に

調査結果サマリー：概要資料URL：[https://npoafterschool.org/wp-content/uploads/2023/11/231114\\_Houkago\\_Report.pdf](https://npoafterschool.org/wp-content/uploads/2023/11/231114_Houkago_Report.pdf)

- 「放課後にもっと友達と遊びたい」小学生は76.2%
- 「学童以外(放課後)に友達と遊ぶのは週1回以下(週1回/ほとんどない)」の小学生は70.9%
- 放課後に思うように友達と遊べないのは「友達と予定が合わない(48.7%)」がトップ
- 「もっと友達と遊べるようになるには、どうなるといいか」には「友達の遊べる日が増える(39.1%)」、「遊び場が近所にある(35.7%)」が上位
- 小学生と保護者へのインタビューで放課後に思うように遊べない理由を聞くと、時間、仲間、空間の「3つ間」に課題があることが伺えた

## DM配信





放課後 NPO | オンラインフォーラム | 参加無料

超アフタースクール 2023

# こどもまんなかでつなぐ 学校と放課後

いま地域と自治体ができること

オンライン開催 2023年11月14日(火) 13:30~15:10

第1部 13:30~14:15  
第2部 14:20~15:10

 平岩 国泰 放課後NPOアフタースクール 代表理事	 池本 美香氏 日本総合研究所調査部 上席主任研究員	 山口 正行氏 こども家庭庁成育局 成育環境課長	 貝ノ瀬 滋氏 東京都二鷹市 教育委員会教育長	 井内 聖氏 北海道安平町教育委員会 子育て・教育総合専門員
---	---	---	--	---

<https://npoafterschool.org/archives/news/2023/10/40286/>

インタビュー記事

## 放課後・学校を 子どもの権利実現の 観点から見直す

池本美香氏

<https://note.com/npoafterschool/n/n27f1cc5775d1>

子どもの声に寄り添い  
カタチにするスタッフにインタビュー！

## 子どもが企画運営する 「こどもキカク」とは？

<https://note.com/npoafterschool/n/n642978e1de13>

全国15拠点！  
子どもの「やりたい」を応援！

## 放課後チャレンジ プロジェクト

<https://note.com/npoafterschool/n/ncbe4bdb9056e>

毎年11月20日は  
「子どもたちの幸せを考える」

## 世界こどもの日

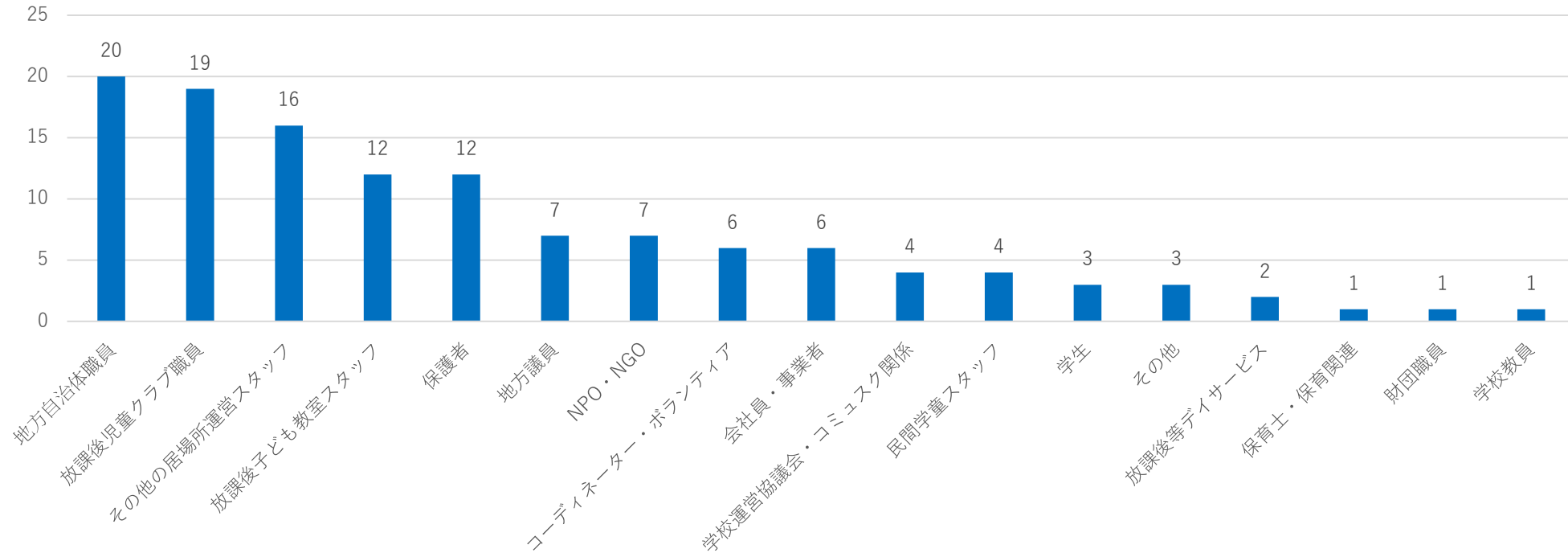
<https://note.com/npoafterschool/n/n3fc929630733>

## 当日の参加状況・アンケート結果

---

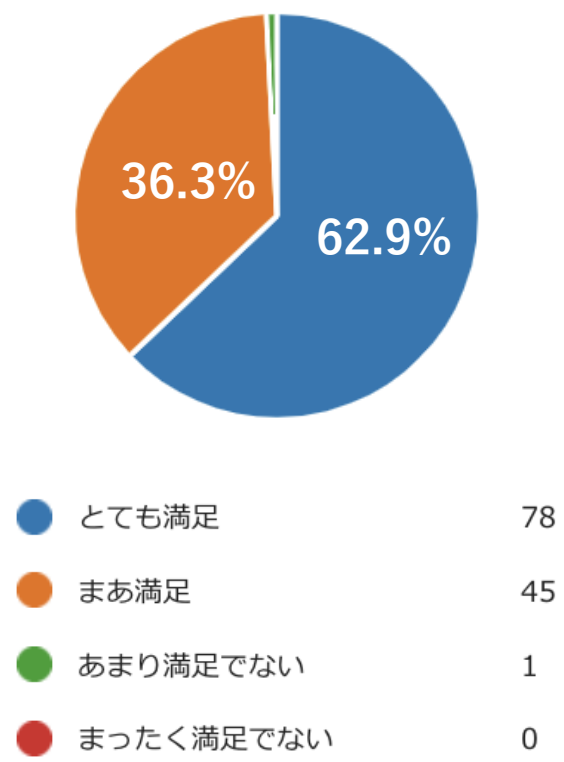
- 当日参加者は220名程度
- 参加者アンケート回答124名（アーカイブ視聴のみの方も含む）
- 所属属性は、地方自治体職員が最多、次いで放課後児童クラブ職員、その他居場所運営スタッフ

アンケート回答者 所属属性(n=124)



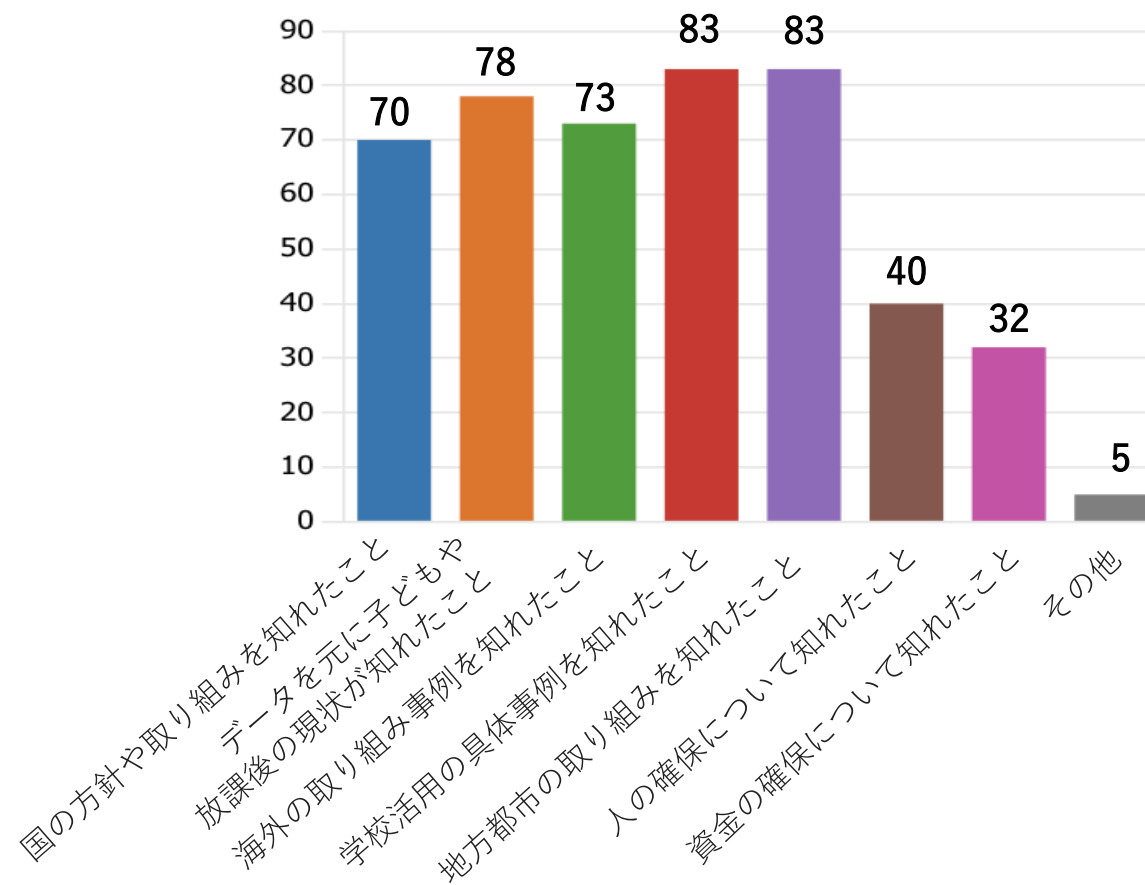
## □ 満足度(n=124)

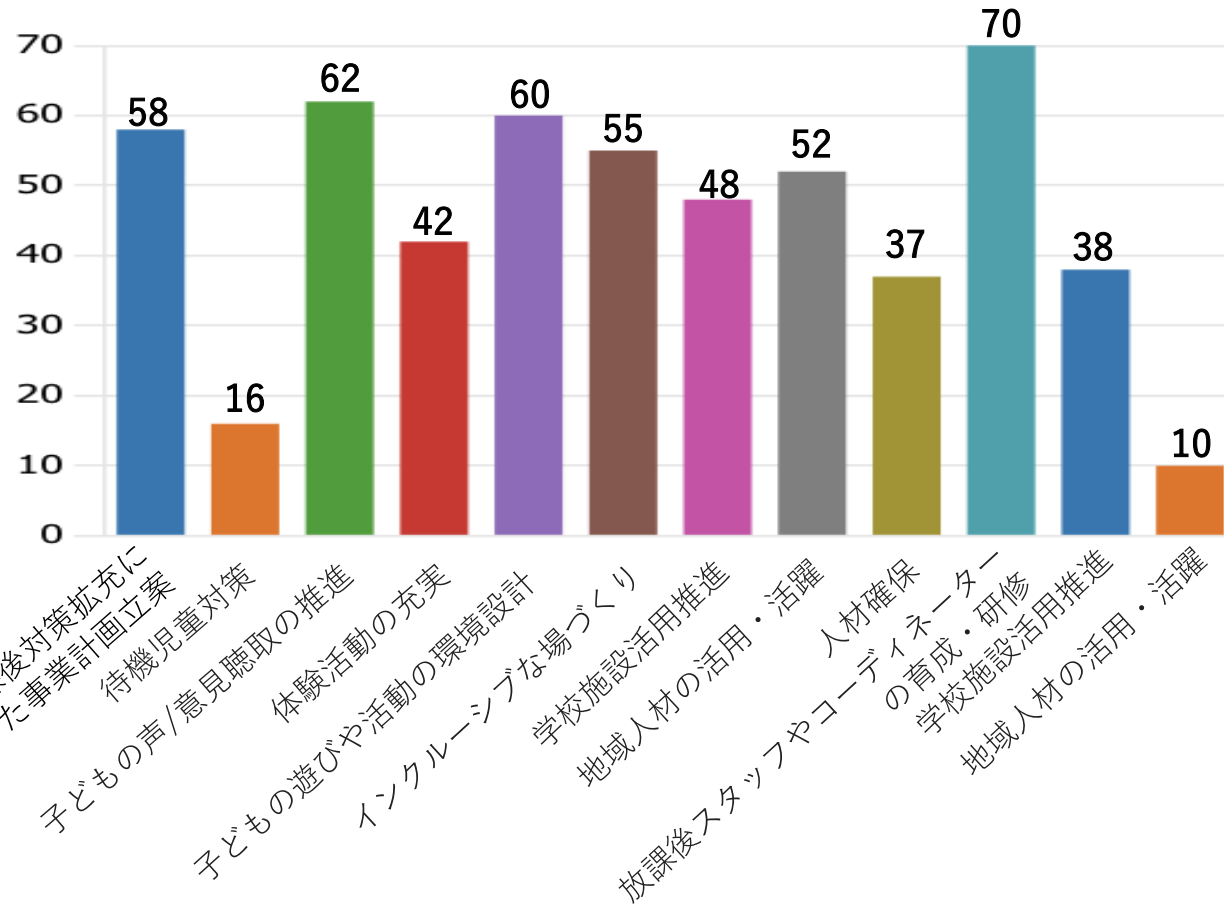
満足（とても+まあ） 99.2%



## □ 有益と感じた情報(n=124/複数回答)

「学校活用の具体事例」「地方都市の取り組み」が最多  
ついで「子ども・放課後の現状」





- **人材確保**に成功した地方自治体にどのような取り組みをしているのか知りたい(自治体職員)
- 引き続き**他市の事例**などを知りたい(自治体職員)
- 海外、都市部、地方それぞれの取り組み事例を知ることができてよかった。次回以降、その取り組み(**仕組み**ができるまで)内容を詳しくうかがいたい(コーディネーター)
- 放課後子ども教室の実施にあたり、**困ったこと及びその対処方法等**について話を聞きたい(自治体職員)

- 学校の建物自体を開放するという取り組みに驚きました（放課後児童クラブ職員）
- 学校の活用が多岐にわたることが気づかされた（民間学童職員）
- 学校は校長のものではない、という点を国としても広めていって欲しい（コーディネーター） ※複数あり
- 自治体へ働きかけをしているところですが、教育委員会の「余裕教室はない」の回答で全てが頓挫しています（コーディネーター）
- アフタースクール運営に対し学校側があまり協力的でない現状がございます（放課後児童クラブ職員）
- 学校施設の活用が課題と感じていた。PTA活動を通してプレイパークのような取り組みを行ってみたい（保護者）
- 校庭開放を担っております。先日も子どもがおやつを食べて来校し、おやつはダメなのよと注意したものの、おやつ食べたい時間よね、ともどかしい気持ちになりました。アレルギーのこと、ゴミのこと、いろいろルールは必要になりそうですが、もっと気軽に校庭に遊びに来れる工夫も必要だなと感じました（保護者）
- 学校施設をたくさんお借りしながら運営しています。特別教室はもちろん、普通教室を借りているところです。放課後こども事業として、学校施設をフル活用している状況のなか、どうしても先生に迷惑をかけているという思いがずっとあって、それが子どもたちに対してのルールだったり指導だったり厳しくなっているような気がしていて、学校施設を使うのがまちがっているという認識でした。（コーディネーター）
- 子どもの遊びの重要性、遊び環境の充実のための学校施設の活用方法についてもさらに情報収集し、発信していきたい（公益財団法人）

## こどもまんなか、子どもの声を聴く

- 放課後児童クラブを保護者に対するサービスと捉えて運営しがちであったが、**児童のwell-beingという視点を得られた**(自治体職員)
- 『こどもの声を聞く』という発想がなかったことにハッとしました(自治体職員)
- 一番大事な「子どもたちの気持ち」を忘れてしまいがちになっていたことに気がつきました (保護者)

## 学校と放課後の連携の大切さ

- こどもを最優先に考えた**学校と放課後を繋ぐことの大切さ**を学ぶことができました (地方議員)
- スウェーデンでは**学校教員と放課後児童クラブの職員の養成課程の一元化**がされていることに驚いた (放課後児童クラブ職員)

## 子どもの遊びについて

- 放課後に子ども同士で約束して遊ぶ子の少なさに驚いた (放課後児童クラブ職員)
- 学びに多様性は大切であるとは思っていましたが、**遊びの大切さ**については目から鱗でした (地方議員)
- 公園が使いにくくなったり学校で遊べなくなったり、**子どもがかわいそうだけど仕方ない…**と思っていたけど、**いくらでもやりようはあるのかもしれない**と思いました。(保護者)

## 放課後の居場所の質について

**自分たちの活動、置かれている状況が、ものすごく遅れている**など感じました。いちスタッフの立場で、現状を変えることは難しい (放課後子ども教室スタッフ)

## 地方・過疎地域でもできること

- 地方の人口が1万人未満の自治体でも、**様々なアイデア・工夫でここまでの取り組みができるのだ**なと驚き、他の多くの自治体も参考にしてほしいと感じました

## 保護者の働き方、子育てについて

- 海外のように子どもの過ごし方を優先し、**仕事を調整しよう**と感じた (保護者)

## 自治体に対して

- 行政と連携することの難しさを感じています(コーディネーター)
- 様々な自治体の取り組みを発信してほしい。うちの自治体は全く動かないので、外堀を埋めるしかない(地方議員)
- 子どもまん中と言いながら、すぐに予算がないと言い切ってしまう市長や行政を何とかやる気にさせたい。民間企業との協力や国の補助金を上手く使うことや、他の施策より優先して取り組むべき課題だと認識していただくには、市議としてどう働きかけたらいかがが悩みどころ(地方議員)
- 市町村の縦割りの壁は大きい(放課後児童クラブ職員)
- 子どもを育てる環境、市民による子育て支援活動の協力体制、居住する自治体によって様々であることに歯痒い思いを抱いております(保護者)

## 放課後の居場所に対して

- 待機児童を減らすことが最優先課題のようで、実態は詰め込んでいるだけのよう感じます(NPO)
- 安全第一の保育のため子どもの声を受けとることができていない(放課後児童クラブ職員)
- 支援員の確保が大変難しい(放課後児童クラブ職員)

## 運営資金に対して

- 教育支援および放課後支援の資金が少なすぎて持ち出しがあります。人材を確保するにも報酬が少なすぎます。不定期に小学校職員と非正規で児童館職員をしています。ダブルワークでも給与が低すぎてそろそろ限界です。校庭開放の職員も低い時給と短い時間なので、ほぼボランティア感覚です。(放課後子ども教室スタッフ)

## 子どもの放課後の過ごし方の悩み

- 最初は学童に入れたことだけでもありがたいと思っていたのが、子供たちに自主性がでてきた中で、学童しか選択肢がない、ということに疑問を持ち始めました。「友達と遊びたい」「家でもっとたくさんピアノの練習を毎日したい」「習い事をしたい」と言われたときに、親のせいでそれをやらせてあげることができないジレンマがありました。田舎に住んでいるので習い事も子供だけで通える距離ではありません。今回少しでも知識を増やして親としてできることをしてあげたいと思いました。
- 児童クラブはバスで20分ほどかかるので利用しない子どもが多く、保護者も共働き世帯がほとんどで、子どもたちの放課後の居場所や過ごし方が地域でも課題になっています。(保護者)